

# 第13回横浜市都市美対策審議会景観審査部会

## 次 第

日 時 平成22年6月15日（火）  
午前10時から午前12時まで

会 場 産業貿易センタービル6階 横浜市港湾局第1会議室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 部会委員紹介

### 3 部会長挨拶

### 4 議 事

(1) 特定都市景観形成行為に関する協議事項及び協議の方針に関する意見について

(みなとみらい2 1新港地区都市景観協議地区 中区新港二丁目11番4)(審議)

(2) その他

### 5 閉 会

## 資 料

資料1：手続きの流れ

資料2：計画趣旨概要と横浜市の協議方針(案)

資料3：計画概要

資料4：欠席委員意見について

参考資料：公募概要

## 第13回 横浜市都市美対策審議会景観審査部会委員名簿

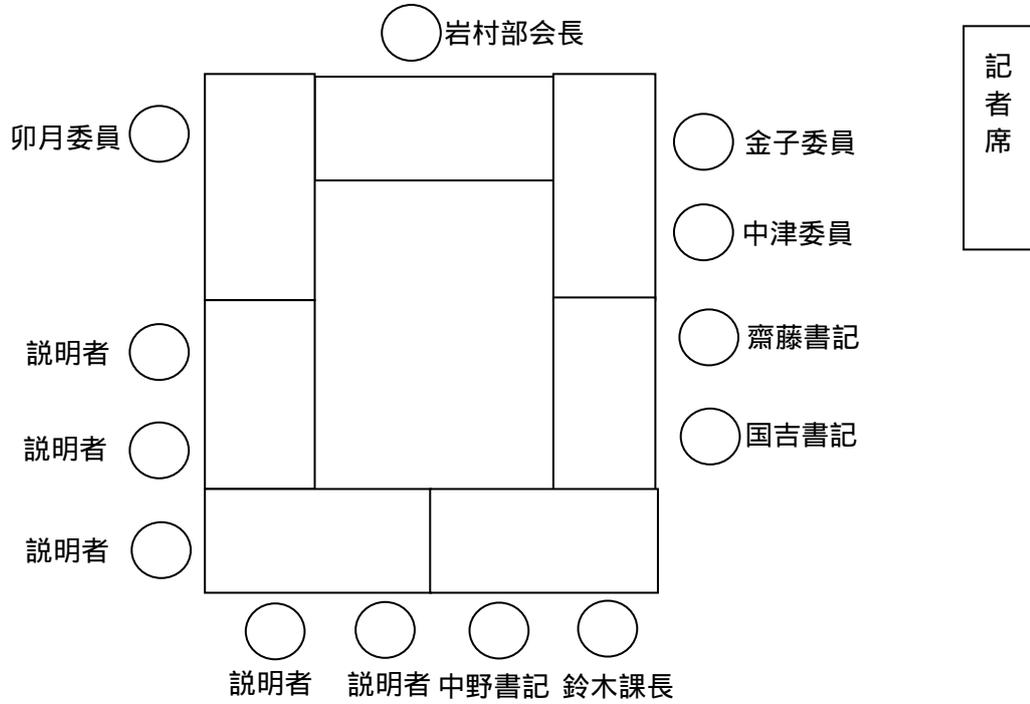
開催日時：平成22年6月15日(火) 10:00~12:00

		氏名(敬省略)	現職等	
1	委員	岩村 和夫	東京都市大学都市生活学部教授 (環境デザイン)	
2	"	卯月 盛夫	早稲田大学教授 (都市デザイン)	
3	"	加藤 仁美	東海大学建築学科教授 (都市計画)	欠席
4	"	金子 修司	横浜商工会議所	
5	"	高橋 晶子	武蔵野美術大学造形学部建築学科教授	欠席
6	"	中津 秀之	関東学院大学建築学科准教授 (ランドスケープ)	

7	書記	齋藤 泉	横浜市都市整備局都市づくり部長
8	"	国吉 直行	横浜市都市整備局上席調査役 エグゼクティブアーバンデザイナー
9	"	中野 創	横浜市都市整備局都市デザイン室長

# 【第13回横浜市都市美対策審議会景観審査部会座席表】

会場 産業貿易センタービル 6F 港湾局第1会議室



事務局・関係者

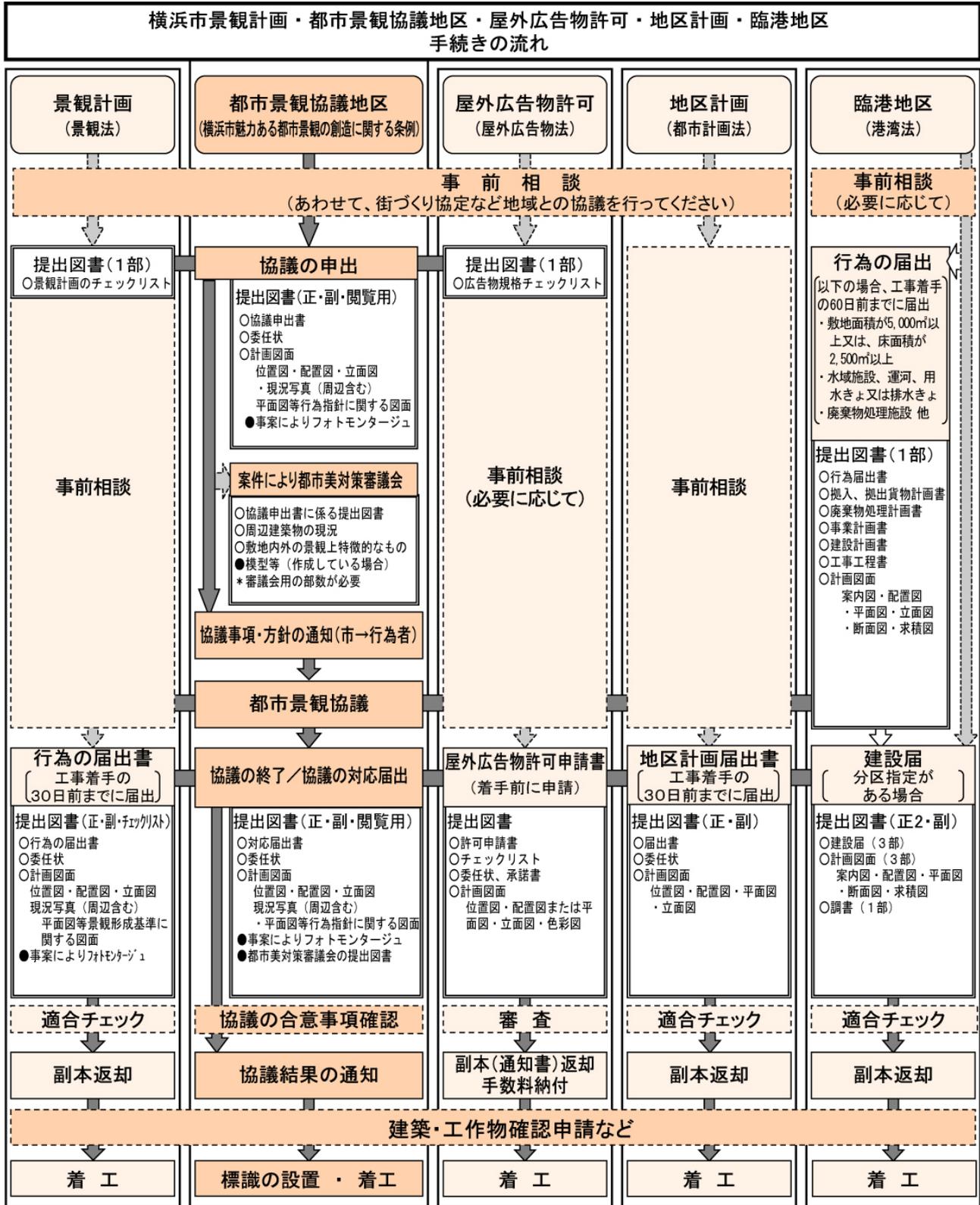
速記録

傍聴者(10人)

(出入口)  
ELV・階段

受付

3 手続きの流れ



「協議の申出」から「協議結果の通知」までに通常要すべき標準的な期間は50日です。ただし、特定都市景観形成行為の場合は、60日です。なお、この期間は協議の状況により前後するものです。

## 「みなとみらい2 1 新港地区都市景観協議地区「中区新港二丁目11番4における特定都市景観形成行為」について」

## 【計画地の特性と建築概要】

- ・ 計画地 : 中区新港二丁目11番4
- ・ 地域地区等 : 商業地域 第7種高度地区 みなとみらい2 1 新港地区地区計画 景観計画(みなとみらい2 1 新港地区)
- ・ 敷地特性 : 敷地は、臨港幹線と賑わいをつなぐ回遊路の交差点に位置し、敷地南側は、国際橋・新港橋軸に接し、北側は新港パークに面していて、対岸や海からの眺望に配慮が必要な位置にあり、魅力ある街並みの形成が必要な敷地である。
- ・ 用途 : 博物館
- ・ 敷地面積 : 4,000㎡
- ・ 高さ(階数) : 26m(地下1階、地上5階)
- ・ 床面積の合計 : 9,859.77㎡

## 【計画趣旨概要と横浜市の協議方針(案)】

配慮すべき「行為指針」	都市景観の形成に関する申出者の考え方	横浜市の協議の方針(案)
<b>1 建物高さに関する事項 (ガイドライン P20)</b>		
(B地区)建築物の高さが20mを超える場合、赤レンガ倉庫や海への眺望を阻害しないよう形態意匠を工夫する。	ワールドポーターズ:31mと新港パーク植樹:約10mの連続性を考慮し、建物高さを26mに抑えます。また道路境界から外壁面をそれぞれ 新港パーク側 : 10m 港湾3号線西側 : 8m 臨港幹線側 : 13m それぞれセットバックさせ、眺望に配慮した配置計画とします。 新港パークに面する外壁については、一部をセットバックさせ海への眺望に配慮した計画とします。	申出者の考えの通りとします。
<b>4 街並み形成に関する事項 (ガイドライン P27)</b>		
道路などに接する部分に設置する垣又はさくは、開放感のある形態意匠とする。	垣やさくは設けず公開的空地とする事で、開放感を確保します。	申出者の考えの通りとします。
植栽は、街路樹や緑地などと調和のとれた樹種とする。	新港パーク側の植栽は、新港パーク既存樹木(クロマツ)並びに歩道街路樹(コリノキ)と形状が調和のとれる樹種とします。 西側・南側の公開的空地の植栽は、歩道街路樹(クスノキ)と高さ・形状調和のとれた樹種とします。	賑わい回遊路沿いの植栽計画について、歩道と空地が一体となるような配置の工夫を行ってください。 植栽の配置や客土について、植栽が良好な状態に保たれるよう工夫を行ってください
建築物の道路に面する低層部には、店舗や市民が利用できる空間など、街に活気を生みだすための空間を配置する。	西側・南側1階部分をガラスカーテンウォールとしエントランスホールとSHOPを配置します。 壁面後退による開放的な公開的空地を設けることで市民が利用しやすく街に活気を生み出す計画とします。	申出者の考えの通りとします。
街に活気を生みだすための空間の外壁は、ショーウィンドウ等の大型の開口部を設けるなど、歩行者空間から賑わいをうかがえる形態意匠とする。	西側・南側1階部分をガラスカーテンウォールとしエントランスホールとSHOPの賑わいが歩行者空間からうかがえる計画とします。 ガラスカーテンウォールに面する部分は壁面後退により外構を公開的空地とし、敷地境界を開放することで、歩行者空間からエントランスホールやSHOPの賑わいをうかがえる計画とします。	申出者の考えの通りとします。
建築物の交差点に面する部分は、街並みの連続性を阻害しないよう、形態意匠の工夫を行う。	西側・南側の壁面を後退させることにより広範囲にわたり視認性を確保することで街並みの連続性を確保します。 外壁をレンガ調タイルとすることで、周囲の建物との色合いをあわせることにより街並みの連続性を確保します。 1階コーナー部分は隅切りをおこない交差点を起点に両側に広がる空地との連続性を確	申出者の考えの通りとします。

		保します。	
	壁面の緑化などにより、街に彩りを与える工夫を行う。	西側・南側1階部分をガラスカーテンウォールとしエントランスホールとSHOPの賑わいが歩行者空間からうかがえるようにし、内部のしつらえを工夫することで、街に彩りを与えます。	申出者の考えの通りとします。
<b>5 建物等のデザインに関する事項 (ガイドライン P31)</b>			
	建築物は、街並みにおける建築物の圧迫感を低減するため、板状を避け分節化などの工夫を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西側と南側の外壁にはスリットを入れ、圧迫感を低減するとともに、ファザードや色彩に変化をもたせませす。</li> <li>・建物上部と1階にはガラスカーテンウォール、その中間にはレンガ調タイルを採用し、外壁の素材を切りかえることにより圧迫感を低減します。</li> <li>・新港パーク側のファサードについては、4階のバルコニー部分の外壁をセットバックし、建物に奥行きをすることにより圧迫感を低減します。</li> <li>・外壁には、平坦でなく凹凸のある素材のレンガ調タイルを採用し温かみのある質感を演出します。</li> <li>・建物が、街並みにあたえる圧迫感を低減するために、当建物高さを26mに抑えます。</li> <li>・1階部分と21mより上部にガラスカーテンウォールを配置することで、建物上部に軽快感をもたせ、建物の圧迫感を軽くする計画としています。</li> <li>・新港パーク側は、海への開放感を演出するために、ガラス手すりによるバルコニーを配します。</li> <li>・西側と南側は、壁面後退により外構を空地とし、敷地境界を開放する計画とし圧迫感を低減します。</li> </ul>	西側、南側外壁のレンガ調タイル壁に設ける開口は、圧迫感を低減する効果が得られるよう、位置と形状等に工夫をしてください。 その他は申出者の考えの通りとします。
	建築物は、歴史やみなとらしさを演出する個性と風格のある形態意匠とする。 ア 新港地区全体としてまとまりのある景観を創出するため、歴史的シンボル施設である「赤レンガ倉庫」に象徴される歴史的資源と調和する形態意匠とする。 イ “島”としての立地を活かし、海や対岸からの眺望に配慮した形態意匠とする。 ウ ガラス面への張り紙の設置は避け、風格のある形態意匠とする。 エ 新港地区の入口に位置する建築物は、“島”の玄関が感じられる形態意匠とする。 オ 奇抜なものを避け、風格のある形態意匠とする。	<p>ア・エ 赤レンガ倉庫と“対”となるように、外壁を“赤レンガ倉庫”のレンガと調和のとれたレンガ調タイルとします。</p> <p>イ 海や対岸からの眺望に対してゆとりをもたせるために、建物上部をカーテンウォールとし空との一体感を図るとともに、海側の一部をセットバックさせガラス手すりによるバルコニーを配し、海側から内部を一部覗え、宵闇には光が漏れライトアップ効果も得られる計画とします。</p> <p>ウ 1階並びに上部カーテンウォール部分には一切余計な手を加えず、素材のもつクリアでかつ軽快な形態意匠とし、中層部のレンガ調タイルと調和させる事で風格を感じさせる計画とします。</p> <p>オ クリアなガラスボックスをイメージしたガラスカーテンウォールとレンガ調タイルの組み合わせによるシンプルで風格のある形態意匠とします。</p>	申出者の考えの通りとします。
	建築物は、対岸から赤レンガ倉庫への眺望を意識した配置及び高さとする。	西側と南側の外壁面を後退させることにより、シークエンス景観の眺望に配慮した計画とします。	申出者の考えの通りとします。
	建築物の頭頂部は、引き締まった風格が感じられ、周辺の街並みと調和するよう工夫する。	建物上部はガラスカーテンウォールとし自然な風合いのレンガ調タイルに対して引き締まった頭頂部とします。 21mより外壁の素材を切りかえることで周辺の街並みとの調和を図ります。	申出者の考えの通りとします。
	建築物の外壁は、歴史性を表現するレンガや石材又はこれらの質感を持つ素材と、水際に対して開放性を高めるガラスを組み合わせた形態意匠とする。	外壁は歴史性や親しみが感じられる街並みを創出するために、自然な風合いが感じられ、街の風景に違和感なく溶け込んで、人々にも受け入れやすいレンガ調タイルとします。 建物上部と1階を開放性のあるガラスのカーテンウォールとし、レンガ調タイルとの組み合わせにより、伝統と革新、過去と現在と未来、発展と調和という要素を無理なく包含している横浜ならではの魅力と本建物の理念を併せて表現した計画とします。	外壁のレンガ調タイルの素材について、単一的な外観の印象とならないよう、特に工夫をしてください。
<b>6 色彩に関する事項 (ガイドライン P34)</b>			
	建築物の外壁及び工作物の色彩は、推奨色とすることにより、新港地区としてまとまりのある街並みをつくる。	外壁を“赤レンガ倉庫”のレンガと調和のとれたレンガ調タイルとします。 凹凸のあるレンガ調タイルにする事で、自然な風合いをもたせ柔らかく感じる工夫をします。 レンガ調タイルは、マンセル表色系で 2.5YR 明度5~6 彩度3~4 7.5R 明度5~6 彩度3~4 10R 明度5~6 彩度3~4 とします。	申出者の考えの通りとします。
<b>7 屋外広告物に関する事項 (ガイドライン P37)</b>			

	建築物又は工作物の中層部又は高層部に設置又は表示する屋外広告物は、落ち着いた中景及び遠景を創出する	(中層部・高層部に屋外広告物なし)	申出者の考えの通りとします。
	建築物又は工作物の低層部に設置又は表示する屋外広告は、賑わいに効果的なデザインや色彩等を工夫し、質の高い広告景観を創出する。	1階部分のガラスと一体感のある質の高い広告景観を創出するため、空地に規則的に配置した3つのアクリル又はガラス製のBOXの中に建物館名が埋め込まれているデザインの屋外広告を設置し必要な情報を集約して表示します。埋め込まれた建物館名文字の色は、コーポレートカラーを基本とします。	申出者の考えの通りとします。
<b>8 屋根・屋上に関する事項 (ガイドライン P42)</b>			
	建築物は、屋上緑化や屋根形状の工夫により、周辺地区からの見下ろしに対し、風格を感じられる見下ろし景観を創出する	建物屋上に設置する設備スペースは、周囲から容易に望見できないように、屋上中央部に集中的に配置します。また周囲と上部にルーバーを設置し景観を阻害しないよう配慮します。	申出者の考えの通りとします。
<b>9 駐車場・駐輪施設に関する事項 (ガイドライン P43)</b>			
	建築物の内部に取り込むなど、街並みの連続性を阻害しないようにし、やむを得ず建築物の外部に設置する場合は、周辺から駐車車両が見えないよう、駐車場又は駐輪施設の外周及び施設内に植栽を配置する等の工夫を行う。	駐車場・駐輪場は建物内部に取り込み周辺から駐車車両が見えない計画とします。駐車場・駐輪場の出入口部分の外周には植栽を設置し、さらに駐車車両が見えない計画とします。	植栽により修景をすることで、街並みの連続性を阻害しないよう工夫を行ってください。
	建築物の内部に設置するものは、壁、ルーバーや植栽等の設置により街並みの連続性を阻害しない形態意匠とする。	出入口以外には壁を設置し、街並みの連続性を阻害しない計画とします。	申出者の考えの通りとします。
	出入口は、歩行者の安全性を確保しつつ、植栽等の設置により街並みの連続性を阻害しないしつらえとする。	歩道からセットバックした位置に出入口を設置し歩行者の安全性を確保し、周囲に植栽を設置することで街並みの連続性を阻害しない計画とします。	申出者の考えの通りとします。
	駐車場への主要な出入口は、新港3号線又は臨港幹線に面する位置への設置を避け、街並みの連続性を阻害しないものとする。	駐車場出入口は臨港幹線を避け、港湾3号線側とします。出入口以外の部分を高木・低木で緑地にすることにより、街並みの連続性を阻害しない計画とします。	申出者の考えの通りとします。
<b>10 夜間景観の演出に関する事項 (ガイドライン P44)</b>			
	建築物の低層部の壁面や敷地内の歩行者空間に設置する照明は、夜間の安全性と賑わいをつくるため、道路照明と調和のとれたものとする。	赤レンガ倉庫のライトアップと調和を図り、外構床面よりレンガ調タイルの外壁をライトアップします。また1階部分をガラス貼りとすることにより、建物内部の照明による夜間の安全性と賑わいをつくります。	申出者の考えの通りとします。
	魅力ある街路空間を演出するため、建築物内部の照明が外部に漏れるようしつらえの工夫を行う。	西側・南側の1階部分をガラス貼とし内部の照明が外部に漏れるようにし街路空間を演出します。	申出者の考えの通りとします。
	夜間景観を演出する照明は、温かみのある色温度3,000ケルビン程度の光源を用いる。	ライトアップの照明は、温かみのある色温度3,000ケルビン程度の光源を使用します。	外部に漏れる内部の照明についても温かみのある色温度の光源を使用してください。
	夜間の魅力あるスカイラインを創出し、遠景における街の象徴性を表現するため、建築物の頭頂部に照明の演出を行う。	上部をガラスカーテンウォールとすることにより建物の頭頂部が内部照明により浮かび上がる演出を行い、夜間の魅力あるスカイラインを創出し、遠景における街の象徴性を表現します。	申出者の考えの通りとします。

## みなとみらい21都市景観協議地区 —説明資料—

---

---

- 01．プロジェクト概要
- 02．デザインコンセプト1
- 03．デザインコンセプト2
- 04．デザインコンセプト3
- 05．位置図
- 06．周辺写真
- 07．周辺建物高さ図
- 08．周辺状況図
- 09．建物外観パース
- 10．フォトモンタージュ1
- 11．フォトモンタージュ2
- 12．フォトモンタージュ3

はじめに

日清食品ホールディングス株式会社（社長・CEO：安藤宏基）は、神奈川県横浜市みなとみらい21新港地区11-2街区の開発事業予定者に決定し、横浜に体験型食育施設「インスタントラーメン発明記念館」（仮称）を建設することとなりました。

当社は、日清食品の創業者で、インスタントラーメンの発明者である安藤百福（あんど う ももふく）の「子供たちに発明・発見の大切さを伝えたい」という思いから、CSR活動の一環として、1999年11月、インスタントラーメン発祥の地である大阪府池田市に「インスタントラーメン発明記念館」を開館しました。同館は世界で年間915.4億食（2009年度）消費される国際食となった、インスタントラーメンの歴史やベンチャーマインドなどを楽しみながら学ぶことができる体験型食育施設です。小中学校の総合学習の授業での利用や全国各地からの修学旅行での訪問も多く、これまでに270万人（2008年度は年間47万人、2009年度は年間501,434人）を超える来館者が訪れ、全国でも屈指の企業ミュージアムとして知られています。中でも「チキンラーメン」を小麦粉からこねて作る「チキンラーメン手作り体験工房」と、世界で一つだけの「カップヌードル」を作ることができる「マイカップヌードル・ファクトリー」という2つの体験型食育プログラムが、来館者の人気を特に集めています。

今回、新たに建設を計画している館は、大阪・池田の記念館と同様、日本で生まれた有数の独自の技術である、インスタントラーメンの誕生の歴史や発明・発見の大切さなどを伝えることを目的とするものです。新たな施設では、大阪・池田の記念館と同様の体験施設に加え、食育や子どもたちの創造力を育むための、新たなコンテンツも検討しています。

計画地周辺には国際交流拠点であるパシフィコ横浜を中心に、文化・商業施設など様々な機能が集約されており、羽田空港の国際化、周辺地域との相乗効果も考慮して年間集客数100万人を見込むことができると考えております。国際都市である横浜市を拠点に、東日本だけでなく世界に向けても情報発信できるよう、計画を進めてまいります。



■施設概要■

- 名称： インスタントラーメン発明記念館（仮称）
- 内容： チキンラーメン手作り体験工房、マイカップヌードル・ファクトリーなどの参加体験型アトラクション。インスタントラーメンの歴史などの展示。その他新規コンテンツも予定。
- 所在地： 新港地区11-2街区（横浜市中区新港二丁目11番4）
- 敷地面積： 約4,000m<sup>2</sup>
- 延床面積： 約9,882.32m<sup>2</sup>
- 建物規模： 地上5階、地下1階（機械室のみ）高さ約26m
- 着工： 2010年12月（予定）
- スキーム： 日清食品ホールディングス株式会社が土地を保有し、財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団へ土地を賃貸し、同財団が施設建設のうえ、運営業務を受託する。





## DESIGN CONCEPT

横浜の豊かな歴史を象徴する、品格と風合いの赤レンガ。今回、この横浜の歴史へのリスペクトの思いを込めて、自然な風合いが感じられ、街の風景に違和感なく溶け込んで人々にも受け入れられやすい赤レンガを建物壁面に採用しています。

上部と1階のクリアなガラスボックスとレンガ調タイルの組み合わせは、伝統と革新、過去と現在と未来、発展と調和という要素を無理なく包含している横浜ならではの魅力と発明記念館の理念を併せて表現。

また、建物前面に、パブリックスペースを配し、そこに幅広い世代の人々が自然に集い、憩い、交流が生まれていくような賑わいの場の創出を目指しています。

地域に溶け込み、次の世代につながる食や発明の好奇心の大切さを伝えていく本発明記念館としての役割を、最も自然なかたちで伝える建築ということを大切にデザインした開発プランになっております。

### ◇結節点のシンボルとしての役割

伝統を表現するレンガタイルと革新を表現する「ガラスカーテンウォール」を採用することで、赤レンガ倉庫、関内・山下地区の旧市街地（伝統）と新市街地である中央地区（革新）を結び、結節点として視覚的にもシンボリックなデザインとします。



### ◇個性の演出

建物全体のイメージを「レンガのキュービック」とし、巨大なレンガの壁を想起させる外観と、開口部を交差点側に象徴的に配置したデザインにより、【Museum】としての個性を表現します。新たな個性が加わることで、新港地区にこれまでにない価値と魅力を演出します。

### ◇「赤レンガ倉庫」との調和

本施設の外観デザインは、21mの高さまで港らしさを演出するレンガ調タイルを採用し、新港地区の歴史的シンボル施設である赤レンガ倉庫と色彩・素材感を統一させ、新港地区全体の調和を図ります。



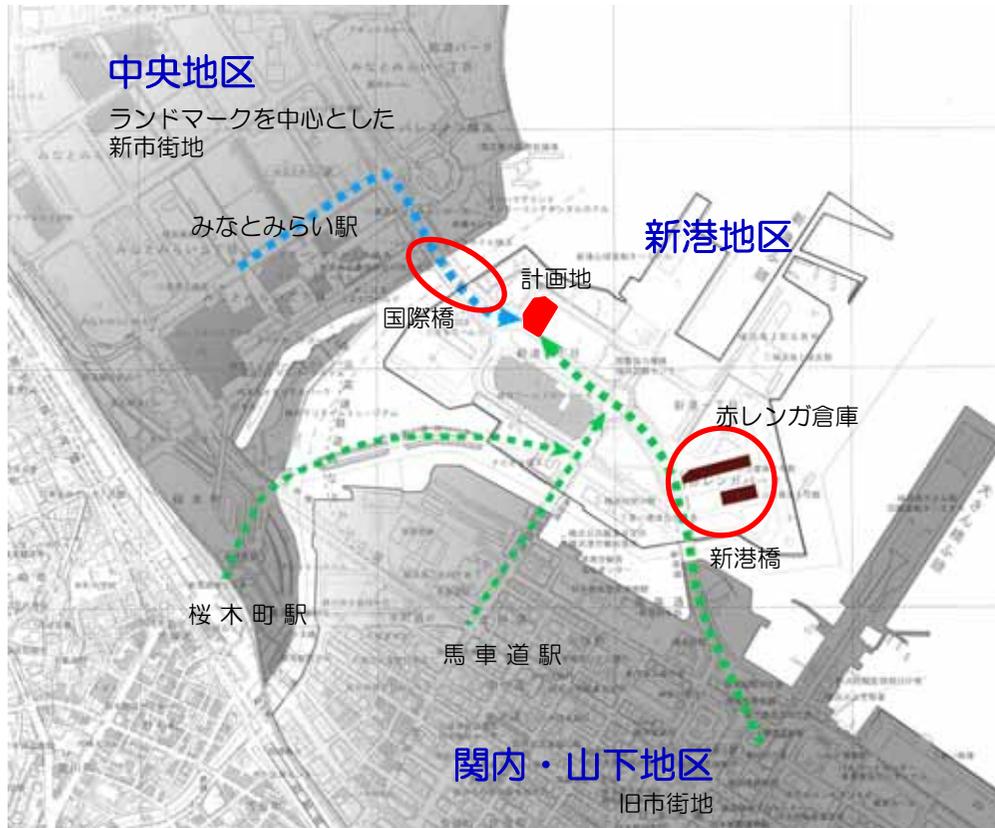
### ◇文化の創造・革新

文化の創造を表現するために、海側からの景観として、本施設と赤レンガ倉庫とが対称的に島の両端に配置される事で、近代港湾発祥の歴史の象徴と、新しいみなとまちの象徴をイメージさせる計画とします。また、伝統的な赤レンガの雰囲気重視しながら、新しい価値としての“革新”を表現するために、建物コーナーのエッジを強調したデザインとし、ガラスカーテンウォールを採用することにより、斬新さが強調される計画とします。

### ◇環境への取り組み

横浜市「脱温暖化行動方針」と代表企業グループで制定する「環境憲章」を通じて、公民協働による環境活動を実施します。本施設では、「氷蓄熱システム」を導入することで年間約15%の電力消費量の削減を見込んでいます。また、開口部を限定し吹抜けホールを3面壁とすることでエネルギー効率を向上させ、3面ガラスの場合と比較して年間約100tonのCO2削減を見込んでいます。





■個性を活かす (景観ガイドライン 地区の個性)

◇地区を結び人と人をつなぐ結節点

新市街地であるみなとみらい2 1中央地区と旧市街地である関内・山下地区の間に位置する新港地区に当施設を計画することで、新旧2つの地区を結びつけ人の流れを作り出す結節点としての役割を果たします。またその流れは馬車道や桜木町へと広がって行きます。

◇島の玄関口としての役割

新港地区の歴史の一部であり、“島”の存在感を高めている赤レンガ倉庫と対をなす位置となる1 1 - 2街区に当施設を計画することにより、島へのアプローチである国際橋側の玄関口として、“赤レンガの島”を演出します。

◇連続性ある街並み作り

近代港湾発祥の地としての歴史性を感じさせる関内・山下地区から赤レンガ倉庫へと続くレンガ建築の連担性を考慮し、レンガ調タイルを基調としたデザインとします。また、高さを抑えることで新港地区の歴史性を意識した街並み作り、海へ向かって開放感が感じられる街並みの形成に配慮します。

■街づくり (景観ガイドライン 街づくりの基本的な考え方)

◇“楽しさ”を実現する

西側と南側は壁面後退により空地を設け道路との境界に隔てるものをなくすることで、人の流れを引きこみ賑わいを創出します。

◇“優しさ”を実現する

道路と敷地は基本的に段差のない外構計画とし、一部の高低差は緩やかなスロープですりつけ、人に優しい街づくりに貢献します。また、館内は完全バリアフリーとしています。

◇“美しさ”を実現する

レンガ調タイルの外壁と、外構を空地とすることで海が見える臨港幹線道路側からは美しいみなとの情景を意識した景観を創り、新港パーク側からは港街らしい歴史と風格を感じさせるデザインとします。



中央地区・新市街地



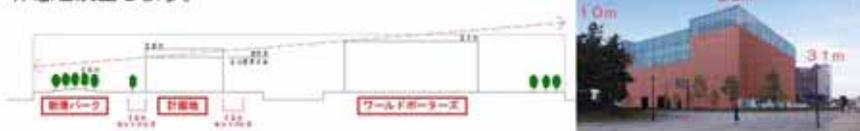
新港地区・結節点



赤レンガ倉庫

海に向かってゆとりを持ち、連続性が感じられる街並み

ワールドポーターズ：31mと新港パーク植樹：10mの連続性を考慮し、建物高さを26mとし、上部をガラス張りとします。  
新港パーク側に樹木を植えることで新港パークとの緑化による一体感を演出します。



開放的で居心地のよい水域・水際線の風景

建物の外壁面をそれぞれ

新港パーク側：10mセットバック  
中央地区側：8mセットバック  
関内地区側：13mセットバック  
することにより、ゆとりのある水域・水際線の風景をつくと共に、新港パーク側セットバック部分に緑地を設けることで新港パークとの一体感を演出します。



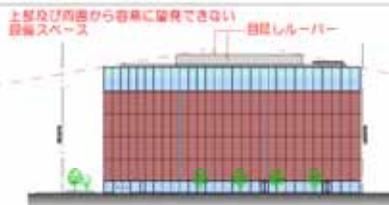
歴史的シンボルとしての赤レンガ倉庫への見通し景観

インターコンチネンタルホテル側からと国際橋からの眺望確保のため、新港パーク側と臨港幹線道路側をセットバックします。



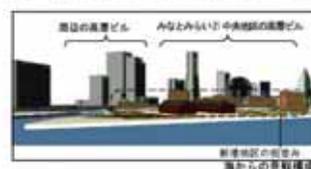
周辺地区からの見下ろし景観を意識

建物屋上に設置する設備スペースは、ルーバーで隠すことにより景観を阻害しないよう配慮します。



歴史性を意識し、高さを抑えたまとまりのある街並み景観

建物高さを26mに抑え、21mより上部をガラス張りとします。赤レンガ倉庫との調和を意識し、外壁はレンガ調タイルとします。



歴史性のある  
国際橋とシンボル  
赤レンガ倉庫を  
レンガ調タイルの外壁  
歴史性のある  
ガラスカーテンウォール



歴史やみなとらしさを活かしたシークエンス景観

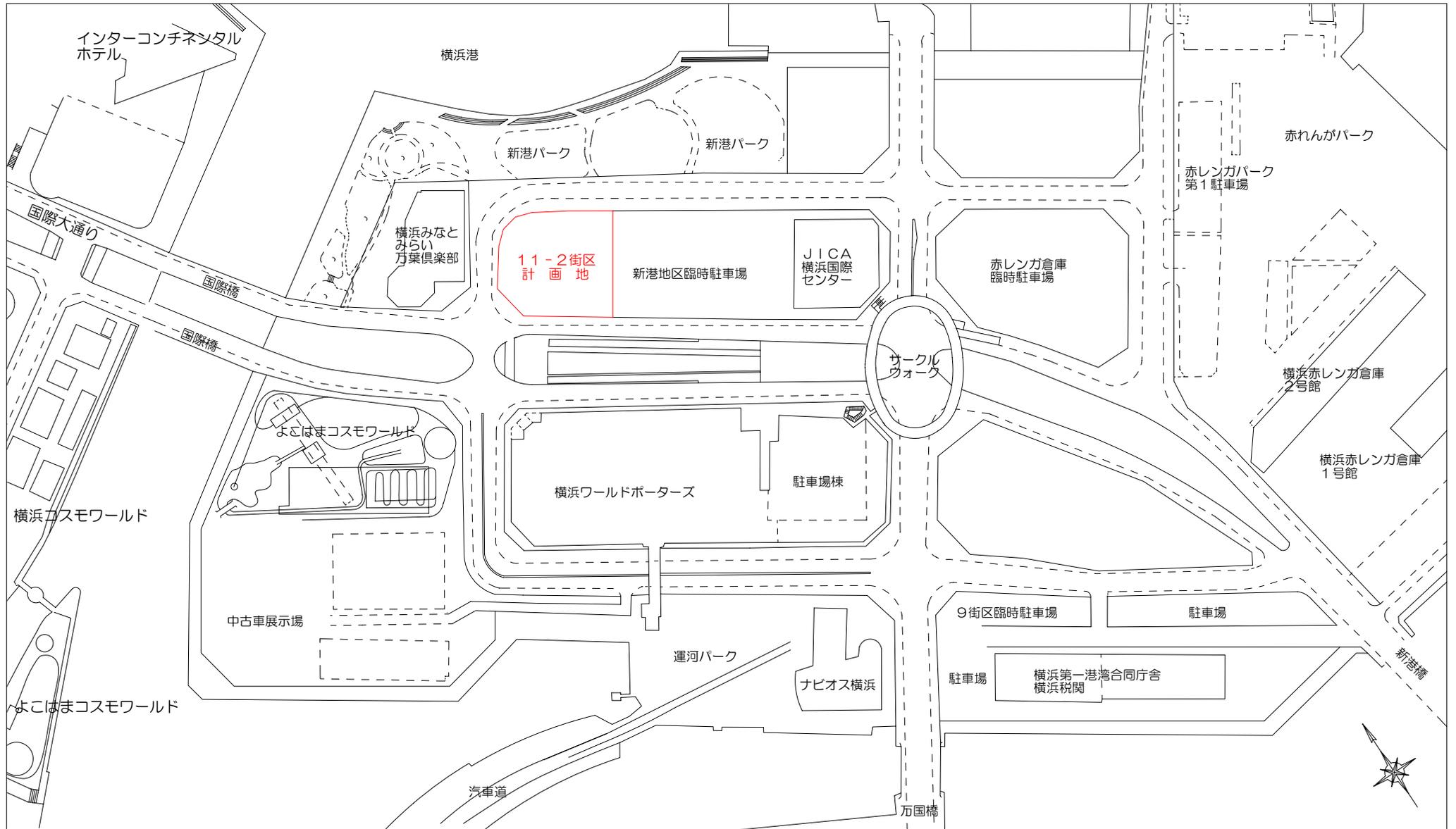
国際橋・新港橋軸である臨港幹線道路から建物をセットバックし、ゆとりとした沿道景観と赤レンガ倉庫への通景を確保します。



歩いて楽しく賑わいのある街並み

西側・東側1階部分をガラスカーテンウォールとシエントランスホールとSHOPの賑わいが歩行者空間からうかがえる計画とします。  
ガラスカーテンウォールに面する部分は壁面後退により外構を空地とし、敷地境界を開放することで、歩行者空間からエントランスホールやSHOPの賑わいがうかがえる計画とします。



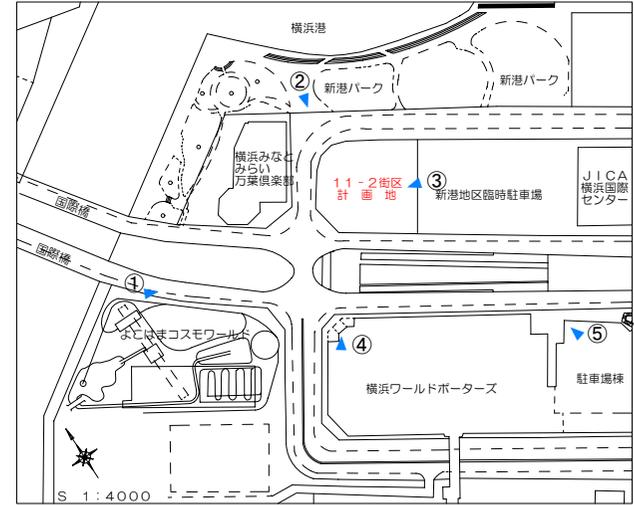




①国際橋側からのシークエンス景観



②臨港パークより



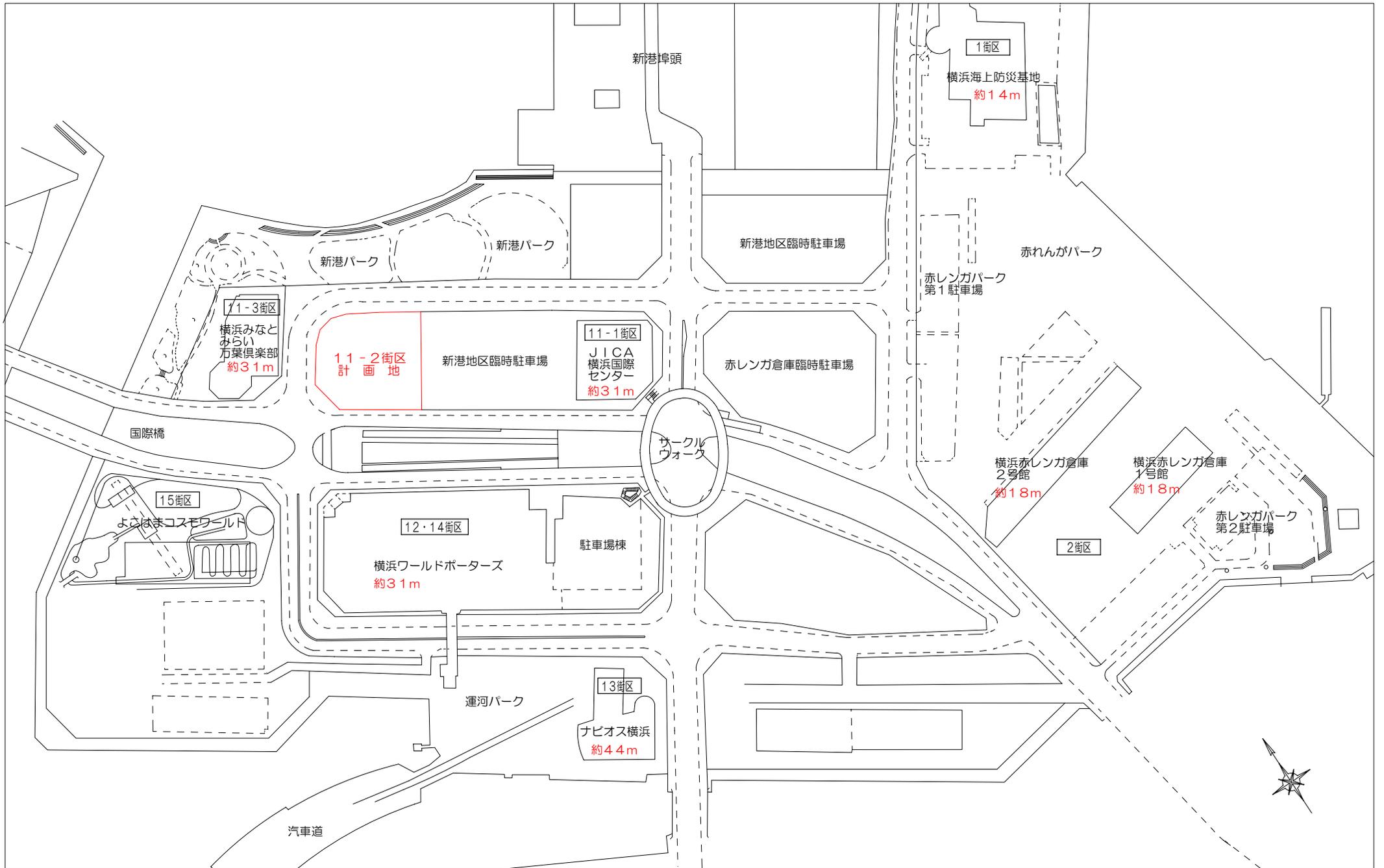
③計画地東側隣地より

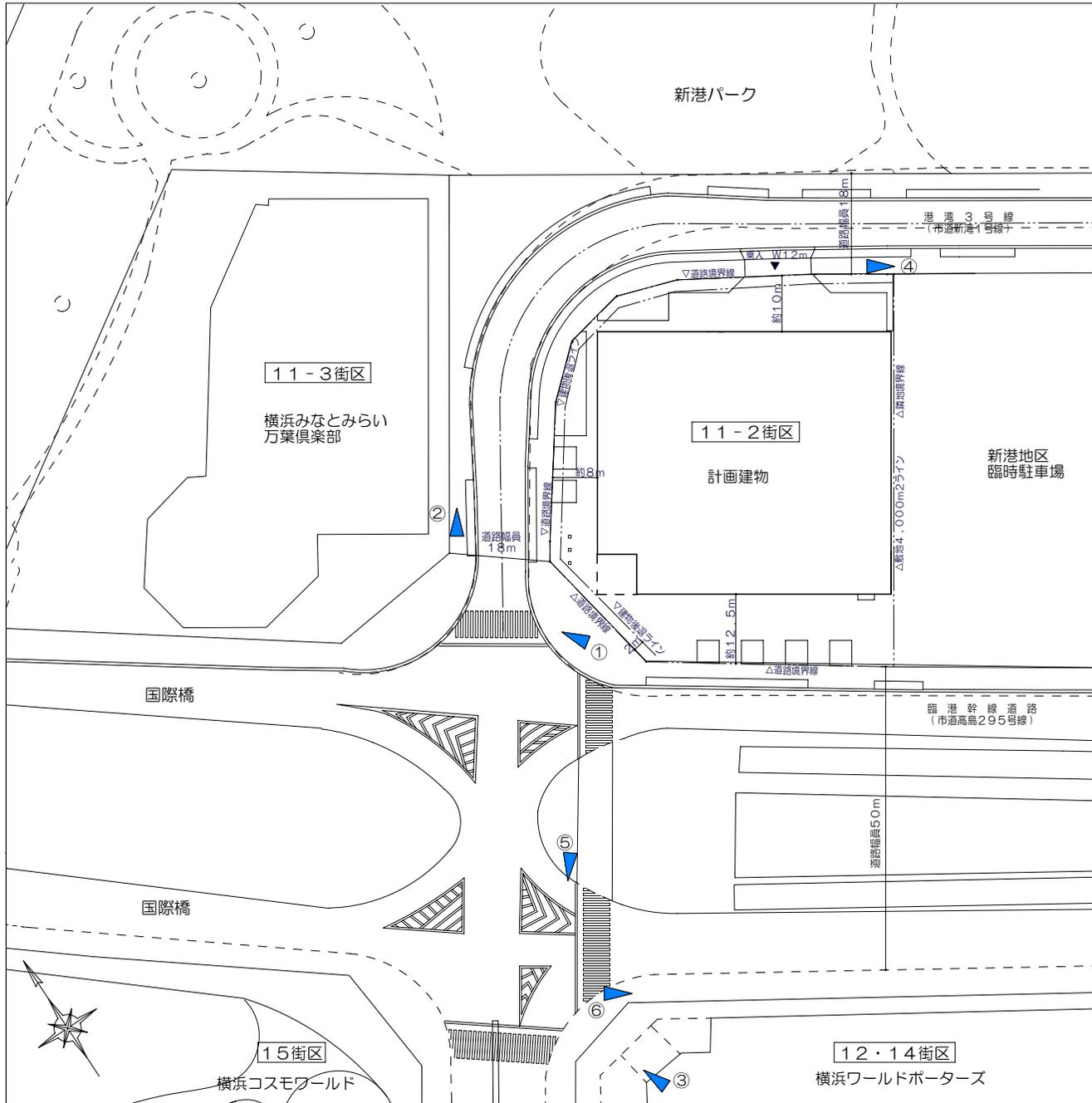


④ワールドポーターズ屋上より



⑤ワールドポーターズ駐車場棟より





①万葉倶楽部交差点側



②万葉倶楽部東側セットバック



③交差点 (新港パーク入口)



④計画地北側歩道



⑤ワールドポーターズ東側セットバック



⑥ワールドポーターズ北側セットバック



全景1 (昼間)



全景2 (昼間)



全景3 (夜間)



全景4 (昼間)



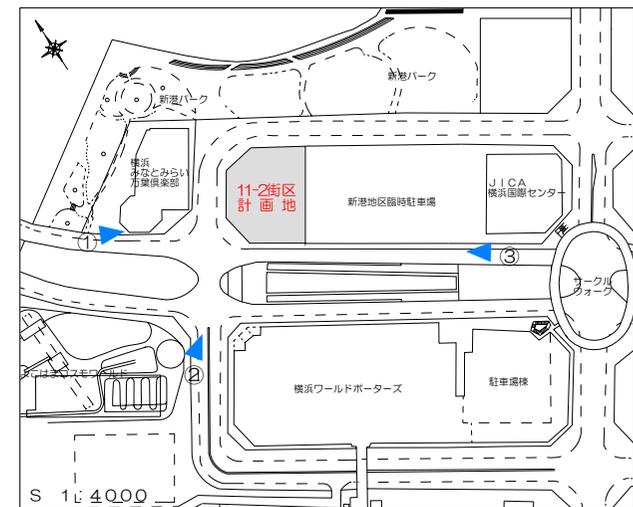
①国際橋より

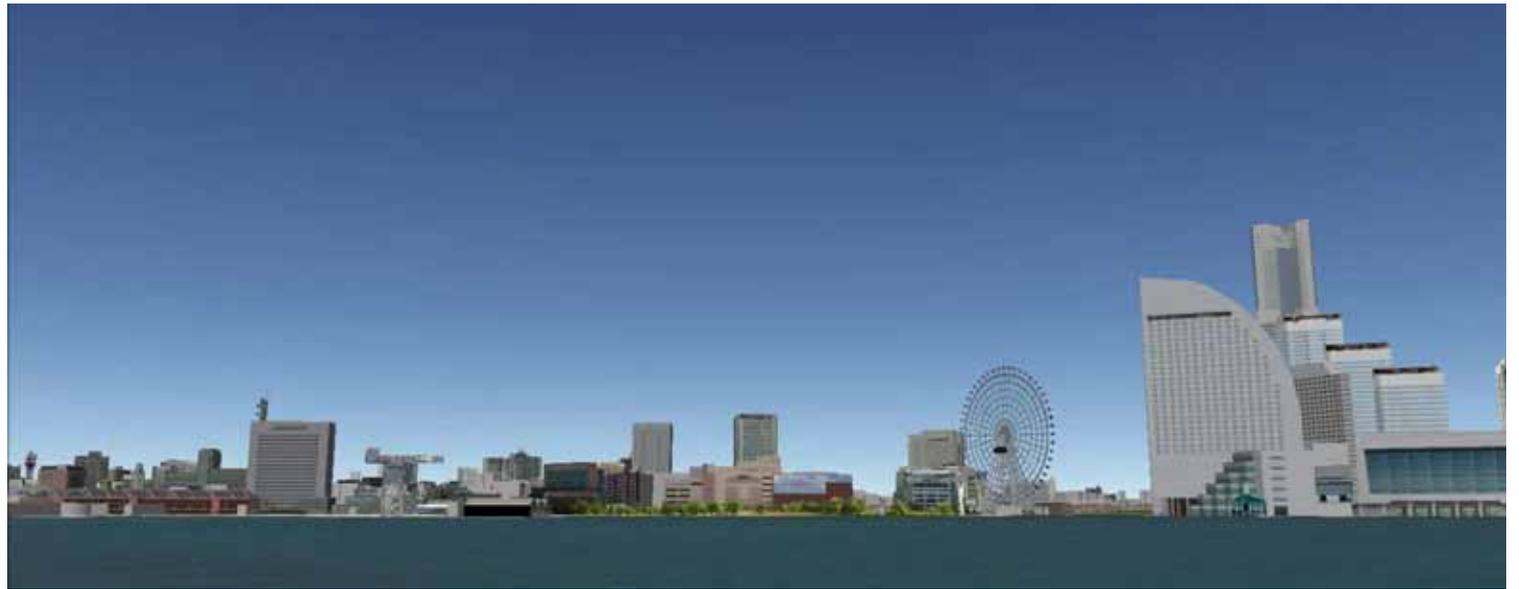


②臨港幹線道路×港湾3号線交差点より

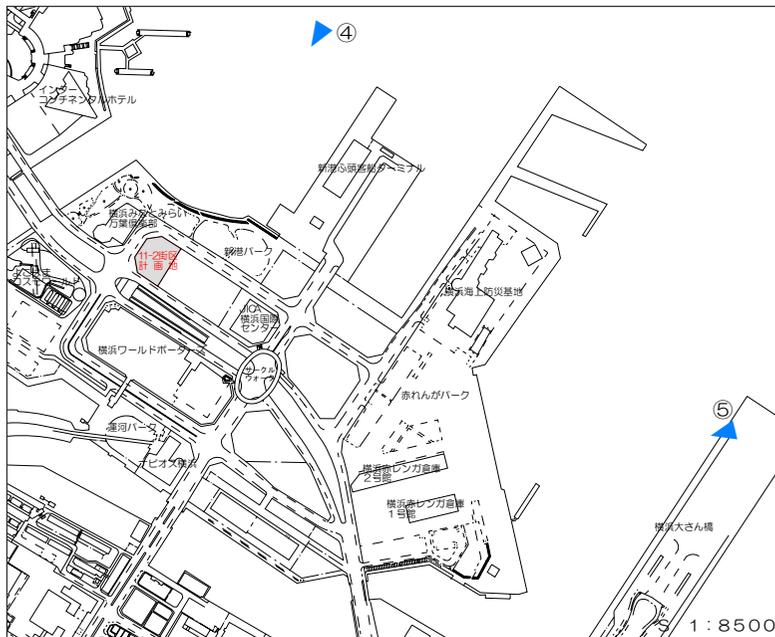


③新港サークルウォークより





④海側より



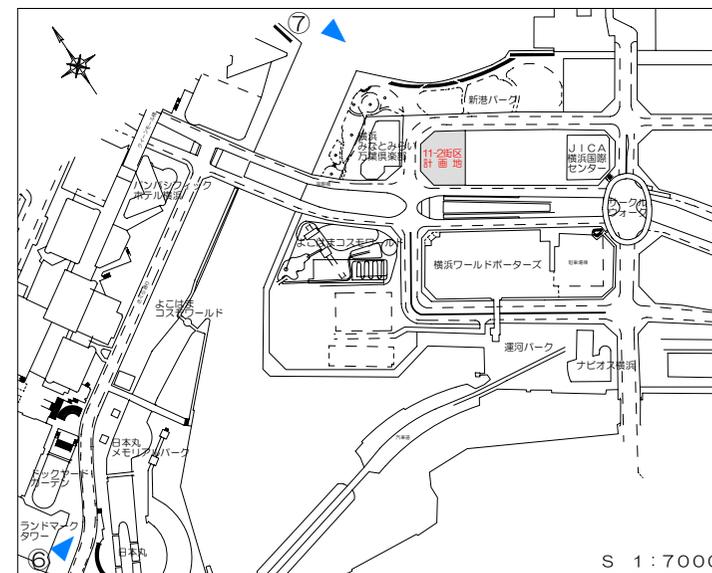
⑤大栈橋側より



⑥ランドマークタワー側より



⑦インターコンチネンタルホテル側より



## 欠席委員意見

加藤委員	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遠景的には、まちなみとして馴染んでいるように見えるが、閉鎖的なデザインとなっている。海側に抜けるような通り抜け空間や大きなガラスの吹き抜け空間などを効果的につくって、開放的な計画にした方がいい。(設計者のコンセプトとは異なる計画となるが。)</li> <li>2. 入り口付近やワールドポーターズ側の壁面後退部分とあわせて、人を迎え入れるような広場的な空間があった方がいい。</li> <li>3. 内部空間については、デッキテラスをもっと広くとったり、1階駐車場を地下にして新港パークとワールドポーターズ側の抜けられる空間を造ったりすることが出来れば、よいものになるのではないか。</li> </ol>
高橋委員	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. もともと倉庫群があった港に立地するという点では、分節化としては現在の案でよいと考えられる。遠景として見たときに、産業施設を思わせるレンガのボリュームが端正に感じられるのが望ましい。 事例) ドイツ・エッセンにある世界遺産(近代産業遺産)、 ツォルフェラインの炭坑跡施設群</li> <li>2. 場所が臨港幹線に面し自動車の交通量が多いところだけに、近景(低層部)のにぎわいの作り方が大切になると思う。素材としては、チープなものをういず質の高いものにして欲しい。</li> <li>3. 近景として1階部分のデザインディテールが大切になる。開口部を繊細につくる、あるいは2辺支持のガラスで連続したサッシレスな面を作り込むなど、中を見たくなる表情を検討して欲しい。</li> </ol>